



WINPEC Working Paper Series No. J1410  
June 2015

娘の身売りは昭和恐慌期に増えたのか

原田泰・安中進

現代政治経済研究所  
(Waseda INstitute of Political EConomy)

早稲田大学

## 娘の身売りは昭和恐慌期に増えたのか+

原田泰\*・安中進\*\*

2015年7月12日改訂

### Did daughters selling themselves for prostitutes increase in the Showa Depression period?

#### 要旨

昭和恐慌期によって疲弊した日本の農村では、娘の身売りが相次ぎ、それが現状を打破しなければならないという世論を強め、紆余曲折のあげく、戦争にまで突き進んでしまったという議論がある。娘の身売りが相次いだという話は、高校の日本史の教科書にも載っている。しかし、それは本当なのだろうか。各社の教科書は、娘の身売りがあったということに関しては一貫しているが、それが昭和恐慌期に増大したというデータは示されていない。

本稿は、娘の身売りの増加という現象自体が、そもそも実際に起こったのか、起こったのだとしたら、いつ起こったのかを『警視庁統計書』から作成した時系列データを用いて検証した。

その結果、昭和恐慌期に娘の身売りが大きく増加していた根拠はないことを明らかにした。ただし、昭和農業恐慌時に娘の身売りが増えていた可能性はある。また、昭和恐慌期に東北の一部で娘の身売りが増えていたとしたら、それは浜口内閣の官有地払下げによる可能性があることも明らかにした。

一方、1906年から7年以降、東北で娘の身売りが激増していたことが示唆される。にもかかわらず、それにはまったく触れられることなく、根拠のない娘の身売りの激増説と東北の困窮と戦争とを結び付けるのは奇妙なことである。

---

+ 本稿の未定稿を社会経済史学会第84回全国大会（2015年5月31日、於 早稲田大学）、日本銀行金融研究所（2015年6月29日）にて発表した。東京大学の石井寛治名誉教授、伊藤正直名誉教授、成蹊大学の松本貴典教授、早稲田大学の鎮目雅人教授、佐賀大学の金子晋右准教授、日本銀行金融研究所の渡邊賢一郎所長、小池良司氏、森田泰子氏はじめ多くの方々よりいただいた有益なコメントに感謝する。もちろん、残る誤りは著者の責任である。

\* 早稲田大学政治経済学術院教授（現 日本銀行政策委員会審議委員） 連絡先 harada.econ@gmail.com

\*\* 早稲田大学大学院政治学研究科 連絡先 profound@moegi.waseda.jp

## 1. はじめに

昭和恐慌期によって疲弊した日本の農村では、娘の身売りが相次ぎ、それが現状を打破しなければならぬという世論を強め、青年将校の憤激を招き、紆余曲折のあげく、戦争にまで突き進んでしまったという議論がある。娘の身売りが相次いだという話は、高校の日本史の教科書にも載っている。戦前、日本の貧しい時代に娘の身売り—借金のかたに年季奉公で娼妓に売られるということがあった。しかし、昭和恐慌期にそれが急増し、しかも、継続的に増大していたということがあったのだろうか。

各社の教科書は、娘の身売りがあったということに関しては一貫しているが、それが昭和恐慌期に増大したというデータは示されていない。また、いつ起こったのかについても記述に揺れがある。昭和恐慌の直接的な影響で娘の身売りが増えたのか、昭和恐慌後に起きた農業恐慌によって増えたのか、教科書によって強調点の違いがあるが、両者の影響が相まって娘の身売りが発生したとされている。

本稿は、教科書にも書かれている娘の身売りの増加という現象自体が、そもそも実際起こったのか、起こったのだとしたら、昭和恐慌、昭和農業恐慌のどちらの原因によって起こったのかをデータに基づいて検証する。

## 2. 先行研究

日本経済史の泰斗である中村隆英は、1930年代初期の昭和恐慌期における娘の身売りについて以下のように書いている。

借金を苦しみぬいた農家は娘を遊里に身売り——数百円の前借金で年季奉公させるほどの苦境に追い込まれるものも多かった。<sup>1</sup>

加えて、

娘の身売りに代表されるような農村の窮乏は当然全社会的な反響を呼び起こした。昭和六年三月事件に始まる青年将校のクーデタ参加も、農村出身の新兵を教育するうちに、その出身家庭の窮状を聞いてこれに同情し、またこのままでは後顧の憂いが大きすぎて強い軍隊はできぬという素朴な正義感に発するものも多かった。<sup>2</sup>

とも書いている。

---

<sup>1</sup> 中村隆英『昭和恐慌と経済政策』講談社学術文庫、1994、115頁。

<sup>2</sup> 中村『昭和恐慌と経済政策』116頁。

また、高校の日本史の教科書には

米価は1920年代から植民地米移入の影響を受けて低迷していたが、昭和恐慌が発生するとコメをはじめ各種農産物の価格が暴落した。恐慌で消費が縮小したアメリカへの生糸輸出は激減し、その影響で繭価は大きく下落した。1930（昭和5）年には豊作のために米価が押し下げられて「豊作貧乏」となり、翌31年（昭和6）年には一転して東北・北海道が大凶作にみまわれた。不況のために兼業の機会も少なくなったうえ、都市の失業者が帰農したため、東北地方を中心に農家の困窮は著しく（農業恐慌）、欠食児童や女子の身売りが続出した<sup>3</sup>。

とある。すなわち、現在の教科書では、昭和恐慌だけでなく、それ以前からの米価の低迷、アメリカ大恐慌による生糸輸出の激減、凶作、昭和恐慌により都市で仕事を失った人々の帰農など、恐慌に関する要因と凶作による要因が相まって娘の身売りをもたらしたと説明している。教科書によって、これらの要因の強弱に多少のニュアンスの違いがあるが、ほとんどの教科書が複合要因説を採用しているようである。そこで、本稿では、娘の身売りに関する要因説のうち、中村説を昭和恐慌要因説、現在の教科書の説を昭和恐慌・凶作要因説と呼ぶことにする。いずれの要因も、これらの要因が娘の身売りを発生させた（それまでほとんどゼロであったものを大きな数にさせた）、または増加させたということを前提としている。しかし、このような関係を裏付けるデータは存在するのだろうか。中村も、各社の教科書も、いずれもデータを示していない。

各県に存在する情報は、たしかに昭和恐慌期、あるいは昭和農業恐慌期に娘の身売りがあったという数字を伝えている。表1はそうした断片的な数字をまとめたものである<sup>4</sup>。しかし、1930年以前のデータはないので、娘の身売りが1930年の昭和恐慌期、31年の農業恐慌期に増加したかどうかは分からない。ただし、青森県を見ると32年に身売りが増えているので、31年の凶作に耐えてきた農家が32年の春に耐えきれず、身売りに踏み切ったという因果関係が読み取れるかもしれない。しかし、青森県、秋田県、山形県で、34年に身

---

<sup>3</sup> 『詳説日本史 改訂版』山川出版社、2007年、320頁。他に参照した教科書は『新日本史B』桐原書店、2004年、『日本史B』東京書籍株式会社、2004年、『日本史B 新訂版』実教出版株式会社、2008年、『日本史B 改訂版』三省堂、2008年、『新日本史』山川出版社、2014年である。

<sup>4</sup> これらの数字のうち青森県は婦女子身売り状況とされているが、秋田県は離村女子、岩手県は芸娼妓酌婦女給の許可（届出）人員、山形県は芸娼妓酌婦紹介人員となっている。離村女子は芸娼妓酌婦女給として離村し、また、紹介されて芸娼妓酌婦になるにあたって前借があったと推察され、これらは娘の身売りとして解釈できる。芸娼妓酌婦女給の許可（届出）が身売りとして解釈できるかは不明なので、これについてはさらに調査中である。依拠した文献は、青森県農地改革史編纂委員会編『青森県農地改革史』1952年、212頁（1935年は1-5月のみ）、秋田県は、田口勝一郎『秋田県の百年』山川出版社、1983年、192頁、山形県と岩手県については、楠本雅弘『恐慌下の東北農村 上巻』不二出版、1984年、93頁である。

売りが増えている。34年には東北で大凶作があった<sup>5)</sup>ので、これはその影響と考えることができる。すなわち、身売りが昭和恐慌で増加したというデータは存在しないが、34年の東北の凶作で増加したということは、各県の断片的なデータから示唆できるのかもしれない。

年	青森県	秋田県	岩手県	山形県
1931	641			
1932	984			362
1933		524	402	293
1934	1,255	1,314	329	428
1935	289			

(出所)『青森県農地改革史』『秋田県の百年』『恐慌下の東北農村』

昭和恐慌は物価が3割も下落するというデフレ不況で、農産物価格が工業品価格よりも大きく下落したという不況である。農産物価格の工業品価格に対する比率は29年の水準に戻ったのは1935年のことであるから<sup>6)</sup>、農村において不況が続いていたのは事実である。しかし、この価格比率は徐々に回復していたので、昭和恐慌によって34年に身売りが増えたことを説明するのは難しい(前述のように、凶作によって説明することは可能である)。

表1の出所に上げた文献の一部にある断片的な記述以外に、娘の身売りについて東北全体の数字を対象に検討した先行研究は、おそらく羽田野慶子による研究<sup>7)</sup>以外存在しない。羽田野は、1931年10月30日の『大阪朝日新聞』を引用した上で、娘の身売りが始まったのは、昭和恐慌以降の1931年ではなく、1929年であり、凶作年とも時期がずれていると指摘し、また、その身売りのきっかけは凶作ではなく、国からの官有地払下げによって必要となった資金を調達する手段としてであったとも主張している。そして、以下のように述べている。

言うまでもなく「娘身売り」そのものは、この時期の東北農村に限らず、明治期から昭和戦前期を通して全国各地で起こっていた事象である。しかも、すでに確認した通り、このとき報道された「娘身売り」は凶作に直接の端を発したものではなかった。にもかかわらず、この報道以降、「東北農村の娘身売り」は俄かに世間の注目するところとなり、この時期ちょうど凶作にさらされていた東北農村の窮乏を読者に強く印象

<sup>5)</sup> 『世界大百科事典 第2版』平凡社、1998年。

<sup>6)</sup> 大川一司他編『物価(長期経済統計8)』第10表 農産物総合リンク指数、第15表 工業製品合計、東洋経済新報社、1966年、東洋経済新報社、1967年、により計算すると、1929年の農産物価格/工業製品価格指数(1934-36年平均=100)は29年95.6で30年に77.8に低下するが、その後徐々に回復して1935年に102.3となり29年水準を超える。

<sup>7)</sup> 羽田野慶子「科学研究費補助金研究成果報告書」2009年(平成21年5月15日現在)。  
<http://repo.flib.u-fukui.ac.jp/dspace/bitstream/10098/3519/1/18710225seika.pdf>

付けるとともに、東北農村の凶作をとりわけ「娘身売り」という事象に結びつけ、あたかもそれが東北農村に固有の事象であるかのようなイメージを流布する効果をもったといえる<sup>8</sup>

つまり、娘の身売りが最初にマスメディアで報道されたのは、1929年の官有地払下げ以降娘の身売りが爆発的に増えたとする、1931年10月30日の『大阪朝日新聞』による報道であり、もともと東北の凶作とは直接的な関係がなかったというのである。これを娘の身売りについての第3の仮説、官有地払下げ説としよう。

羽田野は官有地払い下げの内容そのものについては詳しく説明していないが、岩本由輝『山形県の百年』（山川出版社）には比較的詳細な記述がある。それによれば、郡の85%を国有林が占めている最上郡の農民たちが、国有林一五〇町歩開墾し、農地として利用していたところ、昭和4年（1929年）に浜口雄幸内閣が緊縮政策をとったことによって、大蔵省は国有地の整理を主張し、「関係農民に水田一反三〇〇円・畑地一五〇円・山林三〇円で払いさげると告示し、もし期限内に納入しなければ既墾地も第三者に競売すると通告した」<sup>9</sup>ということである。そして、特に最上郡西小国村（現最上町）では、この影響が甚大で、以下のような状況に陥ったという。

とりわけ戸数八二三戸・人口五五三四人の最上郡西小国村（現、最上町）では、こうした国有地の購入資金をえるために農家の娘たちが娼妓として三九人、酌婦として一五人、芸妓として一人、女中として二〇人も売られたため、村内から若い女性が姿を消すという事態になった。<sup>10</sup>

羽田野は、また、内務省社会局社会部「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業地別人員調」（昭和10年2月1日）を主に用いて、1935年（昭和10年）という一時点のみのデータではあるものの、各県在住の芸娼妓の本籍地別データから、娼妓では東北地方出身者の全国における比率がたしかに高いが、九州地方出身者の比率も同様に高く、芸妓、酌婦、女工については、そもそも東北地方出身者の比率が高いわけでもないことを明らかにしている。しかし、羽田野の「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業地別人員調」を用いた研究は、あくまで1935年という、昭和恐慌の傷が癒えた一時点に焦点を当てたものであり、実際に増加しているかどうかを捉えたものではない。ただし、羽田野は「調査がなされた1935年は、東北地方の2度にわたる大凶作（1931年、34年）をきっかけに東北農村の『娘身売り』が社会問題化した時期である」<sup>11</sup>と書いている。すなわち、社会問題化したのがゆえに調査したの

<sup>8</sup> 羽田野「科研費報告書」5頁。

<sup>9</sup> 岩本由輝『山形県の百年』山川出版社、1985年、182頁。

<sup>10</sup> 岩本『山形県の百年』182-183頁。

<sup>11</sup> 羽田野「科研費報告書」3頁。

だが、それが時系列的にどのように動いていたのかは分からないままである<sup>12</sup>。そこで、私たちが新たに発見した時系列データを用いて、より長期的な芸娼妓数の変動を捉えることで、本当に昭和恐慌期や昭和農業恐慌期において娘の身売りの顕著な増加があったのかを検証する。

### 3. データの説明

表 1 注の先行研究を含め、娘の身売りに言及しているものは、酌婦や女給、女工なども含んでいる場合が多いが、本研究では娼妓と芸妓（芸娼妓と呼ばれる）を対象を絞って、娘の身売りの代理指標としている。なおここで、身売りとは、芸娼妓になるにあたって前払いしないし前借をもって労働契約を結ぶことで、その労働が娼妓または芸妓になることを娘の身売りと呼ぶことにする<sup>13</sup>。

本稿の分析では 2 種類のデータを用いる。まず、芸娼妓数については、一般的に広く利用されていない 2 つのデータ、『警視庁統計書』と『内務省警察統計報告』による<sup>14 15</sup>。これらの統計書は、芸娼妓の数を調べているもので、娘の身売りの数を調べてものではないが、多くの芸娼妓が身売りの形で芸娼妓になっていると考えられるため<sup>16</sup>、この数の変化を娘の身売りの数と推定できる。身売りに影響を与えたと思われる経済指標については各県の統計書と『大日本帝國統計年鑑』による。これらについては 4. 分析の東京在住の娼妓・芸妓数と生国ごとの経済変数の項で説明する。

『内務省警察統計報告』は、各県で従事している芸娼妓の数を調べているものである。これは、羽田野が『警察統計報告』（各年度）では、道府県毎のこれらの従事者数が記載されているが、あくまでも現在数であり、出身地域の調査はされていない<sup>17</sup>と紹介してい

---

<sup>12</sup> 朝日新聞・読売新聞の電子版で 1929-37 年について「身売り」をキーワードにして記事検索をすると、29-33 年はほとんど検索されないのに対して、34 年、35 年は 10 件以上ヒットする。

<sup>13</sup> 辞書類も娼妓に絞って身売りを定義しているのが通例である。「1 身の代金と引き換えに、約束の一定期間を勤めること。多く、遊女・娼妓(しょうぎ)にいう。」(『大辞泉』小学館、1998 年)

<sup>14</sup> 警視庁編『警視庁統計書 全 50 巻』クレス出版、1999 年～。

<sup>15</sup> 内務省警保局『内務省警察統計報告 全 18 巻』日本図書センター、1993 年～。

<sup>16</sup> 中央職業紹介事務局「芸娼妓酌婦紹介業に関する調査(大正 15 年)(1926 年)」(谷川健一『近代民衆の記録 3』新人物往来社、1971 年、373-438 頁)によれば、洲崎遊郭の娼妓 1602 人を対象にした「娼妓となれる原因」の調査では、「貧困なる家計補助のため」が 42.39%、「前借金整理並に家計補助のため」が 54.43%、「自己生計困難のため」が 3.18%と、これらの原因で 100%となっている。これはあくまで洲崎遊郭での調査であり、「部分的調査に過ぎるのであるが、之を推し全体を知る」(谷川編『近代民衆の記録 3』411 頁)ことができ、芸娼妓数およびその数の変化を娘の身売りの代替指標として考えることは妥当だと思われる。ちなみに、芸妓 213 人を対象にした調査では、それら理由に加えて、「自己希望に依る」が 16.43%いる。

<sup>17</sup> 羽田野「科研費報告書」3 頁。

るものと同じと思われるが、昭和恐慌説、昭和恐慌・農業恐慌説の文献、羽田野のいずれも『警視庁統計書』の存在を指摘していない。『警視庁統計書』は、東京在住の芸娼妓のみを扱っているものの、時系列に芸娼妓の数を追える新資料と考えられる<sup>18</sup>。

『警視庁統計書』は、東京で従事している芸娼妓の数を出身県別に調べているもので、『内務省警察統計報告』、『警視庁統計書』どちらのデータも、明治33年内務省令第44号として1900年10月2日に発布された「娼妓取締規則<sup>19</sup>」に基づいて、貸座敷<sup>20</sup>数とともに把握されている数字だと考えられ、いわゆる公娼に限られていると思われる。なぜなら、私娼も含むという注意書きのある「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業地別人員調」と、『警視庁統計書』における1935年（昭和10年）の東京在住東北6県出身娼妓の数字を比べると、前者では4693人、後者では3865人と、828人の差があり、この差を私娼の人数と推測できるからである<sup>21</sup>。また、「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業地別人員調」と『内務省警察統計書』の東北6県における娼妓の数も前者の数が多くなっており、やはりこの差が私娼の人数ではないかと思われる。したがって、『内務省警察統計報告』、『警視庁統計書』ともに、公娼の数のみ扱っていると推測されるが、これは本稿の分析に対して大きな障害となるものではない。本稿は絶対数の正確さよりも、激増という現象があったのかとどうかに焦点を当てているので、ある程度全体の数を推測可能な時系列データであれば支障はないと考えられる<sup>22</sup>。警察統計は、その県に在住の芸娼妓数が分かるが、出身が分からないので、東北の経済的困窮が娘の身売りをもたらしたかどうかは分からない。出身が分かるのは、警視庁のデータか、羽田野が用いている1935年1時点のデータしか存在しない。

#### 4. 分析

##### 東京在住の娼妓・芸妓数と昭和恐慌

前述のように、『警視庁統計書』は、東京にいる芸娼妓について、長期にその生国都道府

---

<sup>18</sup> いうまでもないが、都道府県担当の警察のうち、東京担当の警察を警視庁という。

<sup>19</sup> 「第八条 娼妓稼は官庁の許可したる貸座敷内に非ざれば之を為すことを得ず」

<sup>20</sup> 貸座敷「《明治以後、公娼(こうしょう)が妓楼(ぎろう)の座敷を借りて営業したところから》遊女屋。女郎屋。」(『大辞泉』小学館、1998年)。

<sup>21</sup> 「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業地別人員調」における東北6県出身娼妓の内訳は、青森615人、秋田1051人、岩手144人、山形1486人、宮城637人、福島760人である(『買春問題資料集成一戦前編(第22巻)』不二出版、2003年、217-227頁)。『警視庁統計書』における内訳は、青森508人、秋田952人、岩手128人、山形944人、宮城636人、福島697人である。差異の多くが山形県出身者で説明可能であり、山形県出身者に私娼が多く存在したと推測される。

<sup>22</sup> 加えて、マーク・ラムザイヤーは、「私娼は年齢が高かった。…20代後半や30代前半の女性に占める割合は、無許可セクターの方が認可セクターよりも高かった」と指摘している(「芸娼妓契約—生産業における「信じられるコミットメント」—」(曾野裕夫訳)『北大法学論集』44巻第3号、1993年、634頁)。私娼の年齢が高ければ、身売りではない可能性が高い。



県を調べたデータを載せている（芸妓については本籍都道府県<sup>23</sup>で、1929年からのデータしかない）。これはストックの統計であるが、廃業ないしは東京以外に移動した者の数が毎年安定しているとすれば、その差分は、新たに娼妓として生国から東京に娼妓として来た者の数の指標となる。東京の数字が、全国の数字を代表できるとすれば、その差分は娘の身売りの代理変数となる。この数字を娼妓について整理したものが表2、芸妓について整理したものが表3である。

表2 東京における娼妓の生国別人数 (人)

	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928
青森	29	111	142	63	135	143	159	172	230
秋田	259	280	345	174	301	427	438	529	636
岩手	18	19	28	17	16	31	9	43	64
山形	717	673	698	337	550	570	589	605	696
宮城	159	163	177	122	190	220	235	263	309
福島	254	287	337	168	218	341	359	399	467
東北合計	1,436	1,533	1,727	881	1,410	1,732	1,789	2,011	2,402
全国合計	5,499	5,722	5,995	3,363	4,989	5,162	5,294	5,734	6,132
前年差									
青森	2	82	31	-79	72	8	16	13	58
秋田	-3	21	65	-171	127	126	11	91	107
岩手	0	1	9	-11	-1	15	-22	34	21
山形	-111	-44	25	-361	213	20	19	16	91
宮城	3	4	14	-55	68	30	15	28	46
福島	16	33	50	-169	50	123	18	40	68
東北合計	-93	97	194	-846	529	322	57	222	391
全国合計	98	223	273	-2632	1626	173	132	440	398
	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937
青森	276	313	333	429	440	495	508	542	524
秋田	711	760	797	897	882	915	952	841	822
岩手	68	80	68	102	104	114	128	132	135
山形	827	928	1011	1149	1134	1123	944	683	434
宮城	314	327	341	550	588	586	636	612	550
福島	486	543	537	632	616	623	697	747	752
東北合計	2,682	2,951	3,087	3,759	3,764	3,856	3,865	3,557	3,217
全国合計	6,417	6,794	7,156	7,549	7,391	7,314	7,410	7,398	7,207
前年差									
青森	46	37	20	96	11	55	13	34	-18
秋田	75	49	37	100	-15	33	37	-111	-19
岩手	4	12	-12	34	2	10	14	4	3
山形	131	101	83	138	-15	-11	-179	-261	-249
宮城	5	13	14	209	38	-2	50	-24	-62
福島	19	57	-6	95	-16	7	74	50	5
東北合計	280	269	136	672	5	92	9	-308	-340
全国合計	285	377	362	393	-158	-77	96	-12	-191

(出所)『警視庁統計書』

<sup>23</sup> 生国都道府県と本籍都道府県の違いは本統計書に説明されていないが、同じものと思われる。

表3 東京における芸妓本籍道府県別人数 (人)

	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937
青森	48	47	66	74	100	111	155	193	225
秋田	58	55	52	63	81	89	138	164	202
岩手	31	33	38	35	41	40	54	52	69
山形	52	50	55	59	68	75	87	89	111
宮城	76	79	76	89	103	98	117	137	163
福島	107	114	131	120	136	151	180	193	221
東北合計	372	378	418	440	529	564	731	828	991
全国合計	10,649	10,483	9,862	9,576	9,992	10,171	10,661	11,524	12,353
前年差									
青森		-1	19	8	26	11	44	38	32
秋田		-3	-3	11	18	8	49	26	38
岩手		2	5	-3	6	-1	14	-2	17
山形		-2	5	4	9	7	12	2	22
宮城		3	-3	13	14	-5	19	20	26
福島		7	17	-11	16	15	29	13	28
東北合計		6	40	22	89	35	167	97	163
全国合計		-166	-621	-286	416	179	490	863	829

(出所)『警視庁統計書』

表2の娼妓数は、1920年で全国5499人、うち、青森29人となっている。これは東京の娼妓5499人のうち、生国青森の者が29人いるという意味である。21年の前年差を見ると、全国223人、青森82人となっている。なお、この表で全国とあるのは、東京における全国から集まったすべての娼妓、芸妓の数である。ここには、廃業または東京以外に移動したのものがある訳だから、全国から東京に223人以上、青森から82人以上の者が集まったということになる。各県の差分は大きく変動しているので、東北合計の数字が、東北の困窮の度合いを表すと考えることにしよう。1921年からこの数字を見ていくと、1923年に大きく減少していることが分かる。これは当然、関東大震災によって東京での娼妓の需要が減少したことを示しているのだろう。このことが意味するのは、出身地の困窮の度合いという供給要因以外に、東京の需要という要因を考える必要があるということである。関東大震災後の1924年以降は大きく増加し、平常ベースに戻ったと考えられる。

これらの数字は、表1の数字よりずっと小さい。たとえば、娘の身売りの代理変数と考えている差分の数字は、例えば、青森県の1931年の数字を見ると娼妓20人、芸妓19人で合わせて39人である。一方、表1の青森県の数値は641人である。その理由は以下のように考えられる。

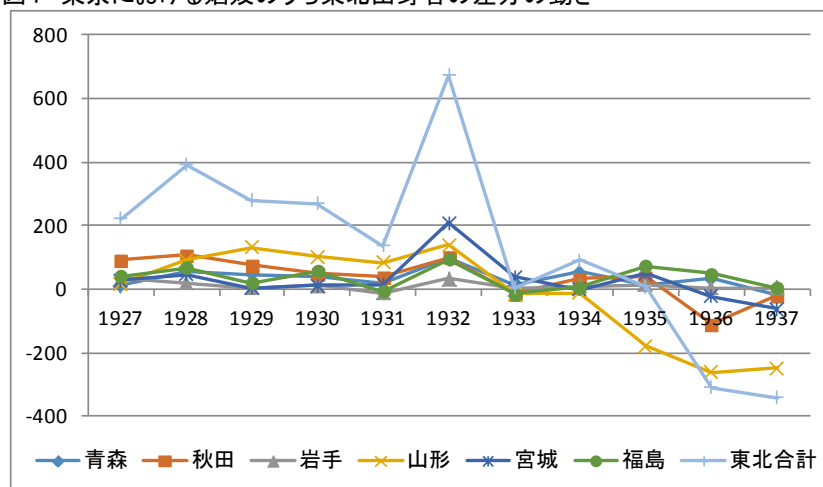
第1には表2、表3の数が東京だけのものであることである。国勢調査によると、30年の芸妓・娼妓の数はそれぞれ7万6639人、4万8839人で合わせて12万5478人、40年では芸妓・娼妓・酌婦の数は15万342人である。すなわち、酌婦の数を無視できるとすると、30年から37年にかけての芸妓・娼妓の数は12-15万人程度であった。同じ期間に、東京の芸妓・娼妓の数は表2、表3の数字を合計して1.7-1.9万人程度であった。東京の7倍が全国の芸妓・娼妓の数となろう。したがって、例えば青森を取ると、その7倍が全国

への身売りの数であろう。しかし、表 2 と表 3 の青森出身の娼妓と芸妓を足した 39 人を 7 倍しても 273 人しかならない。一方、表 1 の青森の身売りの数は 641 人である。

しかし、新規の娼妓または芸妓の数はさらに多いと考えることのできるもう一つの理由がある。今期の娼妓の数を  $S_0$ 、次期の娼妓の数を  $S_1$ 、廃業者の数を  $0.2 \times S_0$ 、新規の娼妓の数を  $N$  とすると、 $S_1 = S_0 + N - 0.2 \times S_0$  となる。廃業率 0.2 とは 5 年で廃業するということである。これは考えられる数値であろう<sup>24</sup>。青森の  $S_0$  が 300、 $S_1$  が 350 に増えたとすると、 $350 = 300 + N - 0.2 \times 300$  から、 $N = 110$  となる。すなわち、ストックの差分の倍の新規の娼妓・芸妓がいてもおかしくはない。すると、273 人を 2 倍して 546 人となり、青森の身売りの数に近づく。加えて、既に触れた公娼と私娼の差による影響も考えられる。表 1 は私娼も含んでいるが、表 2、表 3 はおそらく含んでいない<sup>25</sup>。したがって、こうした計算と公娼と私娼の差を考慮すれば、表 2、表 3 の差分の数値は、新規に娼妓・芸妓になるものの数を表していると考えても良いであろう。

昭和恐慌時に関して、まず、表 2 の娼妓の数を見てみよう。見にくいので表 2 の娼妓の数の差分をグラフにしたものが図 1 である。

図1 東京における娼妓のうち東北出身者の差分の動き



(出所)『警視庁統計書』

図 1 で差分の数を見ると、昭和恐慌以前の 28 年に増加し、その後、昭和恐慌期の 1930 年、31 年に減少し、昭和恐慌が終わった 32 年には激増している。30 年の昭和恐慌が 2 年のラグを持って 32 年の身売りの増加をもたらしたと考えることは可能であるが、31 年でも恐慌は続いていたのであるから 33 年に娘の身売りが増加しなければならないが、33 年には減少しているのです、そのようなことは考えにくい。一方、31 年には凶作が起きているので、

<sup>24</sup>ラムザイヤーは「公娼は一般的に 6 年間の芸娼妓契約で登録し、…娼婦の多くは 3 年から 4 年で借金を完済し、早く廃業したのである。」と書いている（「芸娼妓契約」607 頁）。

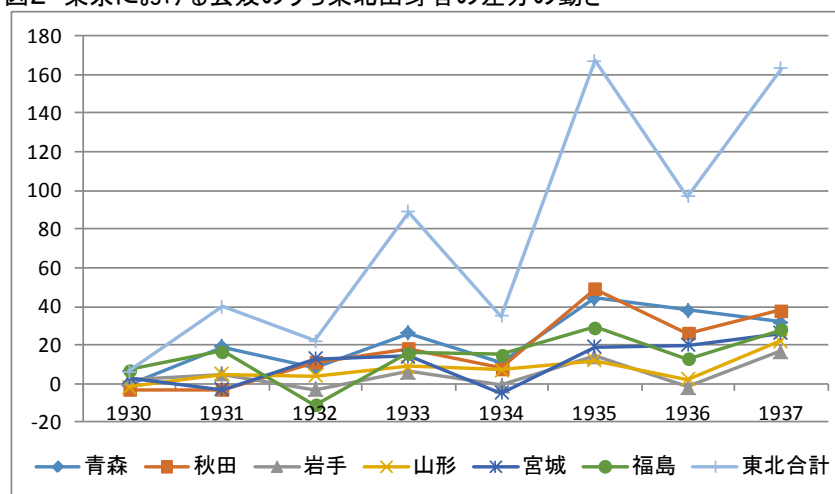
<sup>25</sup> ただし、表 1 の山形の人数は明らかに少な過ぎると思われる。

その影響が 32 年に現れたと解釈することは可能である。また、33 年以降は激減し、東北全体でも、33 年には 5 人、34 年には 92 人、35 年には 9 人、その後はマイナスとなっている。娘の身売りは昭和恐慌期には増加せず、昭和恐慌からの回復した後、日本の繁栄とともに急激に減少していた。すなわち、娘の身売り昭和恐慌説は誤りで、農業恐慌説は正しい可能性がある<sup>26</sup>。

羽田野の払下げ説を検証するために山形県の差分の数値を見ると、娼妓は 29 年から 30 年にかけて増加している。官有地払下げが 29 年から行われたことを考えると、羽田野説は正しい可能性がある。ただし、官有地払下げがどれだけの規模で行われたのかなど、さらに検証する必要がある。

同じことを表 3 の芸妓でも見てみよう。表 3 の芸妓の数の差分をグラフにしたものが図 2 である。こちらは東京にいる芸妓の本籍都道府県を見たものである。同様に差分を見ると、東北全体では、昭和恐慌時の 30 年は 6 人、31 年は 40 人、32 年は 22 人、33 年は 89 人、34 年は 35 人とわずかな数であった。ただし、35 年以降、昭和恐慌が終わった後に増加している。

図2 東京における芸妓のうち東北出身者の差分の動き



(出所)『警視庁統計書』

以上の観察から分かることをまとめよう。昭和恐慌から脱した 1932 年から 37 年まで、

<sup>26</sup> なお、1933 年 3 月 3 日に三陸大地震と大津波が発生しており、それが娘の身売りにつながった可能性も考えられる。この被害は岩手(死者 1316 人、行方不明者 1397 人)、宮城(170 人、138 人)、青森(23 人、7 人)で大きかった(死者、行方不明者は『岩手県昭和震災誌』1934 年 10 月、による。引用は、山下文男「津波における「引き波の恐怖」 - 昭和三陸津波の死者数と行方不明者数の比率の意味するもの - 』『歴史地震』第 18 号、2002 年、183-187 頁、[http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/kaishi\\_18/29-Yamashita.pdf](http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/kaishi_18/29-Yamashita.pdf) による)。ただし、被害の大きかったこれら 3 県で、33 年および翌 34 年に娘の身売りが特に増えたという現象は見られない(本稿図 3, 5, 7 参照)。

日本の実質消費は年率4.1%で増加していた<sup>27</sup>。もちろん、農村部での回復は遅れていたが、後掲図3から図8に見るように、回復はしていた。すなわち、娘の身売りが必要になるほどの困窮が日本を誤らせたという歴史のストーリーは全く根拠がない。日本は繁栄しており、娘の身売りが急減する中で、日本は戦争に突入してしまったと理解するしかない。日本は昭和恐慌からいち早く脱却して繁栄しており、その中で1936年の2.26事件が起きたのである。

### 東京在住の娼妓・芸妓数と生国ごとの経済変数

次に、東京にいる娼妓・芸妓数と生国の経済変数の関係を見てみよう。経済変数は各県統計書と『大日本帝國統計年鑑』の各年版を利用している<sup>28</sup>。『大日本帝國統計年鑑』については、農業生産額のみを使用している。

図3は、青森県出身の娼妓・芸妓数(表2、表3の差分の数値)と『青森県統計書』によって、青森県の生産物総額、農業生産額を見たものである<sup>29</sup>。生産物総額、農業生産額とも名目の数字であるので、昭和恐慌によるデフレーションの影響を受けたものである。統計書、経済変数の説明は、以下の東北各県に共通のものである。農業生産額を見ると、データのあるすべての県で31年、34年に落ち込みがあり、この両年に凶作があったことが確認できる<sup>30</sup>。

図3に見るように、青森県出身の娼妓は関東大震災で減少し、震災前のレベルに戻った後、変動を繰り返しながらトレンド的に減少している。確かに、昭和農業恐慌期、生産物総額と農業生産額が低下した31年の翌32年、娼妓数が増加しているが、その後は傾向的に減少している。芸妓数は29年からしかないが、経済変数の回復とともに、トレンド的な増加を示している。昭和恐慌が芸妓数を増加させたとは言い難い。

---

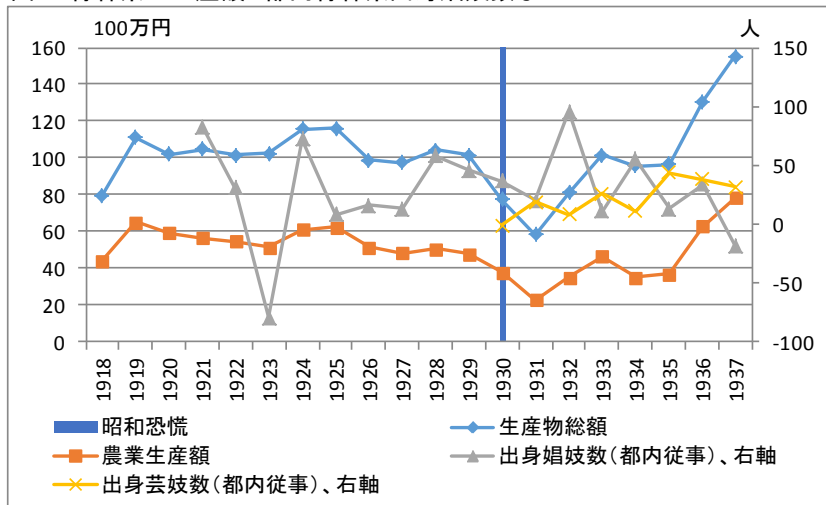
<sup>27</sup> 実質GNPでは戦争経済のために軍事費で膨らんでいるので、生活水準を考えるためには実質消費で見るべきである。実質GNPは40年まで増加を続けるが、実質消費は37年がピークである。大川一司・高松信清・山本有造『長期経済統計1 国民所得』第18表、東洋経済、1974年。

<sup>28</sup> 青森県統計課『青森県統計書』、秋田県『秋田県統計書』、岩手県『岩手県統計書』、福島県知事官房、福島県総務部『福島県統計書』、宮城県知事官房統計課、宮城県総務部統計課『宮城県統計書』、山形県総務部調査課編『山形県統計書』、内閣統計局編『大日本帝國統計年鑑』東京統計協会。

<sup>29</sup> 青森県と福島県については、両県の統計書が『大日本帝國統計年鑑』より長期の農業生産額の系列を掲載しているので、『大日本帝國統計年鑑』を使用していない。

<sup>30</sup> なお、蚕価格の下落が東北においては影響が大きかったのではないかと考えられるが、基本的に、繭価格は農業生産額との相関が高く、農業生産額で代表されていると思われる。

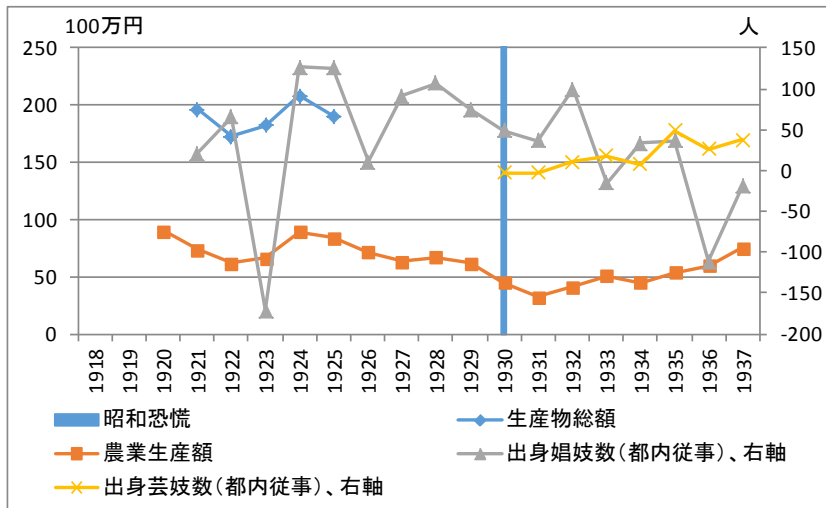
図3 青森県の生産額と都内青森県出身娼妓数など



(出所)警視庁統計書、青森県統計書

図4は秋田県について見たものである。秋田県では経済変数を得ることができなかったが、娼妓は1932年をピークに減少している。ただし、芸妓数についてはトレンド的な増加を認めることができる。

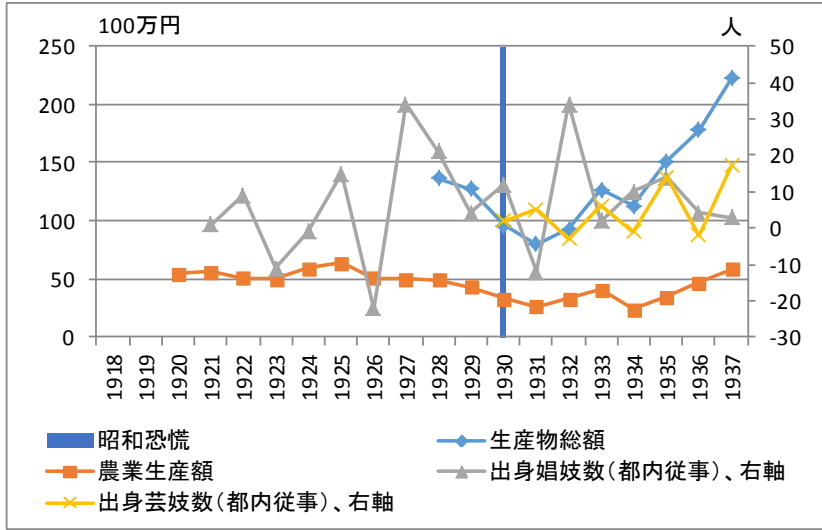
図4 秋田県の生産額と都内秋田県出身娼妓数など



(出所)警視庁統計書、秋田県統計書、農業生産額は日本帝國統計年鑑

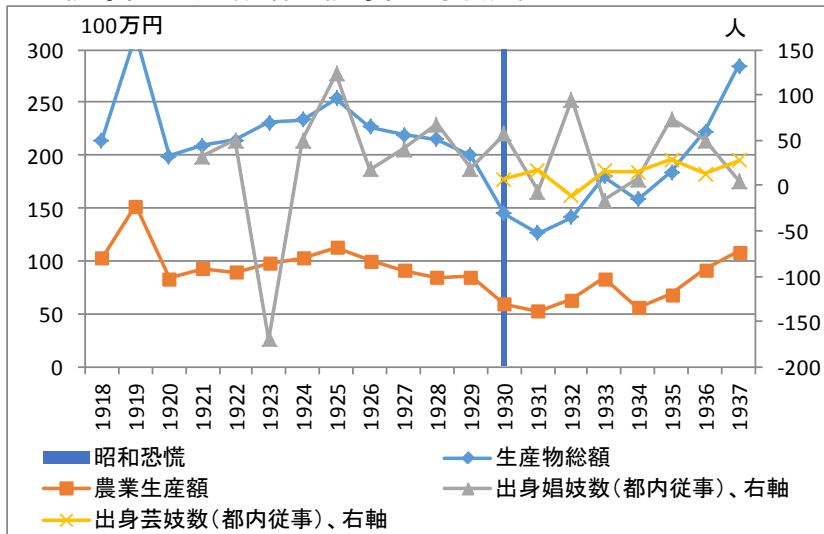
図5の岩手県、図6の福島県においても状況は同じである。娼妓は32年以降、35年にやや跳ね上がりがあるが、トレンド的に減少している。一方、芸妓数は経済変数の回復とともに伸びている。これは、昭和恐慌によって増加したとは言えない。

図5 岩手県の生産額と都内岩手県出身娼妓数など



(出所) 警視庁統計書、岩手県統計書、農業生産額は日本帝國統計年鑑

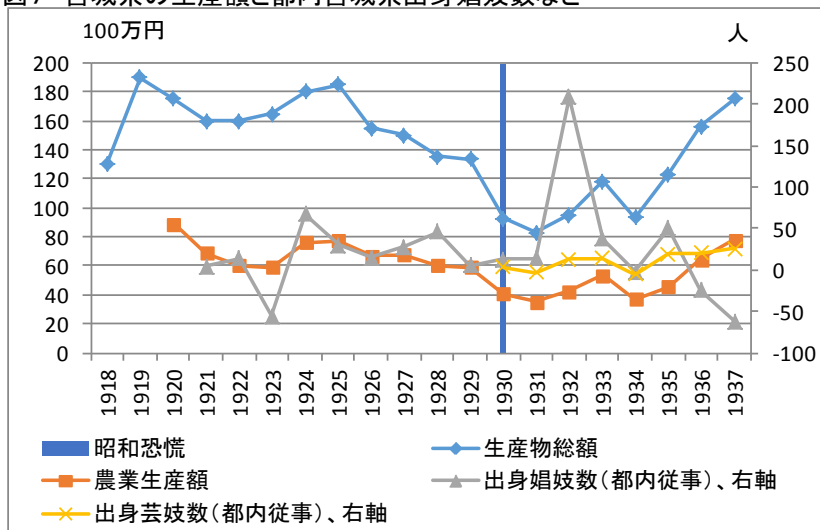
図6 福島県の生産額と都内福島県出身娼妓数など



(出所) 警視庁統計書、福島県統計書

図7の宮城県では、他県とはやや異なり、32年に、それまでのトレンドを明らかに上回る娼妓数の増加が見られるが、それ以降、減少している。芸妓数は経済変数の回復とともに増加している。

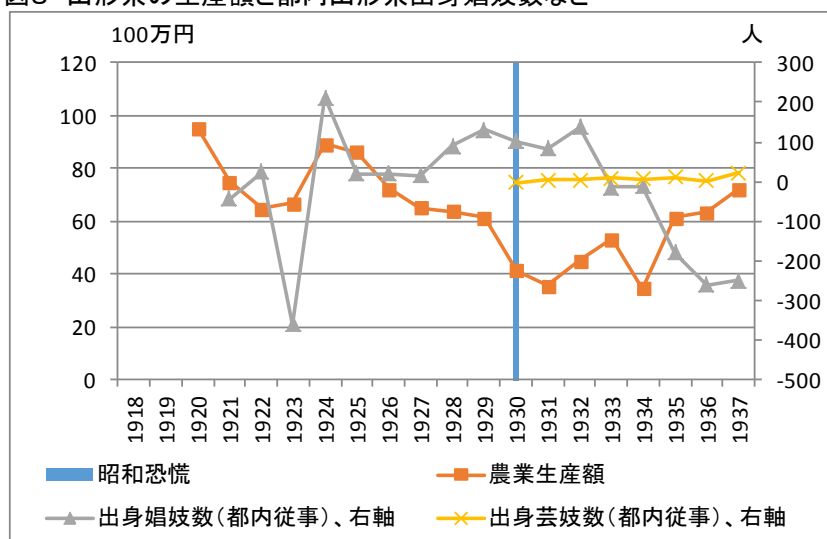
図7 宮城県の生産額と都内宮城県出身娼妓数など



(出所) 警視庁統計書、宮城県統計書、農業生産額は日本帝國統計年鑑

図8の山形県においても、娼妓数は32年以降、減少している。経済変数は回復しているが、芸妓数は横ばいである。

図8 山形県の生産額と都内山形県出身娼妓数など



(出所) 警視庁統計書、山形県統計書、農業生産額は日本帝國統計年鑑

以上をまとめる。青森県、秋田県、岩手県、福島県、宮城県のいずれにおいても、娼妓数は32年に増加した後、大きく減少している。芸妓数は横這いもしくはわずかに増加しているが、それは経済回復とともに起きている。32年の娼妓の増加は、31年の農業恐慌によるものと言えるだろう。しかし、その後の娼妓の減少は、日本が世界大恐慌からいち早く回復したという事実と整合的である。また、芸妓の増加は、日本経済の回復と関係がある



のかもしれない。すなわち、芸妓は高価なサービス業であるから、経済が回復して初めて求められるサービスかもしれない。

ここまでの分析に対して、十分な証拠ではないという批判があるかもしれない。しかし、昭和恐慌時の東北で、経済的困窮から娘の身売りが急増し、それが社会不安の要因となった、またはその象徴と見なせる証拠は乏しいということである。東北を全般的にみれば、東北出身の娼妓は昭和恐慌以前からトレンド的に減少していたが、それが31年の農業恐慌で32年に増加した後、大きく減少した。1930年代の日本は、世界大恐慌から一早く立ち直り、世界の中の繁栄の孤島だった。1931年の実質GNPは横ばいであったが、その後は順調に回復し、2.26事件の起こる1936年の前年の35年に、実質GNPは1930年に比べて32.3%も増大していた<sup>31</sup>。芸妓産業とは、きわめて高価なサービス産業であるから、芸妓が33年以降増加したのは、日本が繁栄していたからかもしれない。

## 5. 昭和恐慌以前の娘の身売りの増加

娘の身売りの急増が先の大戦へつながるきっかけになったという、権威ある専門書や教科書による記述が、そもそも必ずしも明確な根拠のあるものではないことを見てきた。こうした記述には既に分析したことから判明したような疑問点だけではなく、更なる問題点もある。日本は、昭和恐慌以前にも何度かの不況や凶作を経験してきた。昭和恐慌以前、不況や凶作によって娘の身売りが増加したのだろうか。また、昭和恐慌以前の娘の身売りとは昭和恐慌に娘の身売りに違いがあるだろうか。以下、そのことを考えてみたい。

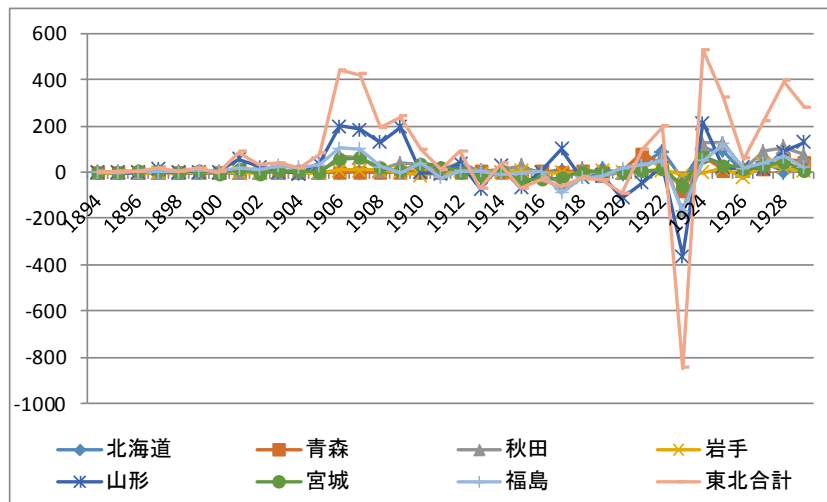
図9は、昭和恐慌以前の娘の身売りについて、図1と同じように数字を作成したものである。これと不況とに関係があるだろうか。

藤野正三郎『日本の景気循環』<sup>32</sup>によれば、戦前の不況期（景気の谷）は91年10月、98年11月、1901年6月、09年1月、14年12月、21年4月、30年11月、1921年4月とされている（いずれも景気の谷の時期）。しかし、図9において、01年には、東北出身の娼妓の数が増加しているが、98年、09年、14年、21年に増加したという関係はなさそうである。ただし、景気の谷自体ではなく、その前後の景気停滞期が重要であると考えられるかもしれない。そうすると日露戦争後の不況（1907年）は、娘の身売りに影響を与えた可能性がある。しかしながら、娼妓数の急激な増加は、06年にすでに始まっており、ラグを考慮すれば、さらに以前からの出来事による影響だと考えられ、不況は、この時代においても、やはり直接的な原因そのものとは考えにくい。

<sup>31</sup>大川一司他編『国民所得（長期経済統計1）』第18表、東洋経済新報社、1974年、より計算。この時期の実質GNPは過大推計ではないかという議論があるが、それを考慮しても3割程度増大していたようである（原田泰・佐藤綾野『昭和恐慌と金融政策』第5章、日本評論社、2012年、参照）。

<sup>32</sup> 藤野正三郎『日本の景気循環』勁草書房、1965年、35頁、第2-4表。

図9 東京における娼妓のうち東北出身者の差分の動き(昭和恐慌以前)



(出所)『警視庁統計書』

また、この図と前掲図1から、東北から東京への娼妓の供給数をもっとも増加したのは、昭和恐慌期ではなくて、1906年から09年にかけての期間であったということが分かる。図9の差分の動きを見ると(付表1から計算できる)、たとえば、最も増加の激しい山形県では、1905年の40人から06年には198人、07年183人、08年128人と増加している。一方、昭和恐慌では、30年101人、31年83人の後、32年には138人と増加するが、33年には-15人となる。昭和恐慌期よりも、1906年から09年の期間こそ激増と呼ぶに相応しい。

主に大正期に廃娼運動を行っていた山室軍平はこの状況を凶作が原因と見ており、「十年前(1904年のことである一筆者)の東北凶作以来、宮城、福島、その他の地方から、上京して娼妓となる者の数が急に殖えたのは、悲しむべき現象である」<sup>33</sup>と書いている。そして、それに続けて、明治35年(1902年)、40年(1907年)、大正元年(1912年)の東北出身の東京在住芸妓数を載せている<sup>34</sup>。また、娘の身売りの数字の動きと山室のいう凶作とは時期がずれているが、凶作をきっかけとして身売りが増え、それが持続したという可能性は十分に考えられる。

さらに、イギリスの新聞が、この時期の東北及び北海道における飢饉について、「北海道及び東北の飢饉は、一八六九年以来の大惨事にして、農民は飢えに泣く妻子を持て余し、娘はこれを売女となす。この憎むべき公娼を国家として公認する国は、すなわち我が大英

<sup>33</sup> 山室軍平『社会廓清論』中央公論社、1977、66頁。

<sup>34</sup> 警視庁が把握している数字であろうと想像できるが、図9の出所である警視庁のデータとは一点だけ齟齬がある。明治35年(1902年)山形の人数が『警視庁統計書』では98人となっているが、山室書では58人となっている。他は全て一致するので単純な間違いであろう。

帝国の同盟国なり。武士道をもって知らるる日本国なり」<sup>35</sup>と伝えていると書いている。

しかし、イギリスに批判されていたにもかかわらず、このことは日本において大きな問題とはならなかった。一方、昭和恐慌と昭和農業恐慌の影響で娘の身売りが激増したという話は、データからはまったく裏付けられないが歴史の教科書にも掲載されている。警視庁の統計は、当時の学者やジャーナリストが知っていたはずの統計である。

山室によれば、東北からの娼妓が増加したのは1904年以降である。私たちのデータも、時期はやや異なるが、それを裏付けている。すると、1900年代の初期に問題にならなかったことが、なぜ1930年代に問題になるようになったのだろうか。それは、日本近代史の歴史家が、昭和恐慌と昭和農業恐慌によって、特に東北地方が困窮し、それが政治の不安定化を招き、ついには戦争にまでつながったというストーリーを求めていたからであろう。しかし、そのような事実はなかった。貧しい時代に娘の身売りという悲惨な事実があったのは事実であるが、それが昭和恐慌時に増大していたという証拠はない。むしろ、1900年から30年かけて豊かになった日本人（一人当たり実質GNPはこの期間に52.4%増加<sup>36</sup>）が、そのような悲惨な事実に驚愕したというのが事実ではないだろうか。

もちろん、身売りされた娘たちが東京以外の道府県に売られたという可能性も考えられる。しかし、こちらについてもデータの表す数字は、増加どころか、むしろはっきりと減少している傾向が見られる。表5と表6は、日本全国の娼妓、芸妓数をみたものである（表の都道府県は出身県ではなくて、そこに在住の娼妓、芸妓の数である）。表5は娼妓、表6は芸妓である。ここで期間を24年から37年としたのは、この統計の開始が24年であること、また、終了年を37年としたのは、37年までしかない警視庁統計に合わせたからである。

凶作による東北の農業恐慌が最も悪化したといわれる1934年は、全国における娼妓の数が、1924年から37年の間で最低の年になっている（45,705人）。また、その後数年の娼妓数の増加も、全国でせいぜい1000～2000人の増加であり、この期間もやはり激増したとはいえない。したがって、東京以外の他道府県に東北からそれまでに見られないような大量の娼妓が送られたということは考えられない。そして、東北在住の娼妓の数も1925年をピークに、それ以降は明らかな下降トレンドを示している。こうしたデータから身売りによって東北からの大量の娼妓が昭和恐慌期に生み出されたとは言えないと判断できる。

他にも、1935年の1時点だけであるが、どの都道府県にどの都道府県出身の娼妓が何人いたかを示す内務省社会局社会部「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業値別人員調」（昭和10年2月1日）においても東京に比肩するほど多数の娼妓が東京以外に東北から供給されているということはない<sup>37</sup>。たとえば、この「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業値別人員調」では、東京における娼妓数（私娼を含むとされる）が9250人、大阪における娼妓数が8444

<sup>35</sup> 山室『社会廓清論』66-67頁。

<sup>36</sup> 大川一司他編『国民所得（長期経済統計1）』第32表、東洋経済新報社、1974年、より計算。

<sup>37</sup> 『買売春問題資料集成一戦前編（第22巻）』222-223頁。

人と、大阪にも東京に次いで多くの娼妓が存在したことが分かるが、大阪稼業娼妓の東北出身者数は、青森 52 人、秋田 198 人、岩手 15 人、福島 29 人、宮城 23 人、山形 60 人であり、秋田はやや多いが、東京稼業娼妓の東北出身者数（青森 615 人、秋田 1051 人、岩手 144 人、福島 760 人、宮城 637 人、山形 1486 人）を全県で大きく下回っており、やはり東京が東北からの娼妓の供給先であることが明らかである。その次に全体数が多い京都も、東北出身者数はせいぜい 2 桁である。大阪や京都における娼妓の主な供給地は九州地方であり、これを考慮すると、全国における娼妓輩出率は東北ばかりが突出しているわけではなく九州も高い<sup>38</sup>。これは羽田野の「科研費報告書」が既に指摘している<sup>39</sup>。東京に続いて東北出身娼妓数が多いのは、愛知や神奈川である。愛知は、青森 243 人、秋田 303 人、岩手 40 人、福島 137 人、宮城 131 人、山形 142 人と、東北出身娼妓数が東京に次いで多い。しかし、その数は、東京の数分の 1 から 10 分の 1 程度であり、やはり東京が突出している。

また、全体的な傾向は付表 3 を見れば分かるが、愛知は東京都と同じように緩やかな増加傾向にあるが、既に分析しているように、東京ですら激増しているとはいえないため、やはりこの間に東北出身者が激増しているとは考え難い。神奈川は、そもそも 1920 年代から全体の娼妓数が減少傾向にあり、この間に東北出身者が激増したとは更に考え難い。

---

<sup>38</sup> たとえば、熊本出身の娼妓数は、大阪 974 人、京都 438 人と、かなりの数に上り、東北出身者を圧倒的に上回っている。

<sup>39</sup> 羽田野「科研報告書」3-4 頁。

表4 全国における娼妓数(全年齢)、出身県ではなくて、その県に在住の娼妓数

	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930
東京	4,992	5,159	5,294	5,734	6,062	6,360	6,794
北海道	2,093	2,055	1,907	1,782	1,747	1,706	1,774
青森	531	558	517	471	473	415	433
秋田	305	306	263	240	211	176	163
岩手	379	414	416	396	418	398	378
山形	774	795	795	736	623	569	578
宮城	439	459	446	447	406	379	366
福島	499	522	466	486	445	430	420
東北合計	2,927	3,054	2,903	2,776	2,576	2,367	2,338
全国合計	52,325	52,886	50,800	50,056	49,058	49,477	52,117
	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937
東京	7,151	7,495	7,388	7,314	7,473	7,393	7,207
北海道	1,645	1,473	1,249	1,067	1,017	1,052	993
青森	394	377	378				
秋田	132	111					
岩手	355	292	298	253	200	183	183
山形	547	536	498	472	293	185	156
宮城	345	326	333	288	268	270	250
福島	381	363	324	265	201	190	193
東北合計	2,154	2,005	1,831	1,278	962	828	782
全国合計	52,064	51,557	49,302	45,705	45,837	47,078	47,217

(出所)『内務省警察統計報告』

表5 芸妓数(全年齢)、出身県ではなくて、その県に在住の芸妓数

	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930
東京	9,985	10,154	10,124	10,246	10,404	10,649	10,483
北海道	3,441	3,639	3,679	3,475	3,730	3,326	3,454
青森	486	513	543	393	449	466	461
秋田	408	509	485	515	523	488	499
岩手	384	377	386	366	387	354	340
山形	668	658	677	700	669	602	577
宮城	418	430	449	480	456	470	388
福島	1,307	1,463	1,455	1,461	1,335	1,424	1,220
東北合計	3,671	3,950	3,995	3,915	3,819	3,804	3,485
<b>全国合計</b>	<b>77,101</b>	<b>79,348</b>	<b>79,934</b>	<b>80,086</b>	<b>80,808</b>	<b>80,717</b>	<b>80,075</b>
	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937
東京	9,862	9,576	9,992	10,171	10,661	11,524	12,353
北海道	3,340	3,717	3,224	2,847	2,648	2,797	2,488
青森	390	374	363	342	337	333	291
秋田	478	457	455	457	451	504	510
岩手	359	345	365	398	344	353	381
山形	500	511	505	468	437	426	442
宮城	357	350	397	349	377	324	336
福島	1,230	1,253	1,184	1,133	1,192	1,199	1,169
東北合計	3,314	3,290	3,269	3,147	3,138	3,139	3,129
<b>全国合計</b>	<b>77,351</b>	<b>74,999</b>	<b>74,200</b>	<b>72,538</b>	<b>74,855</b>	<b>78,699</b>	<b>79,868</b>

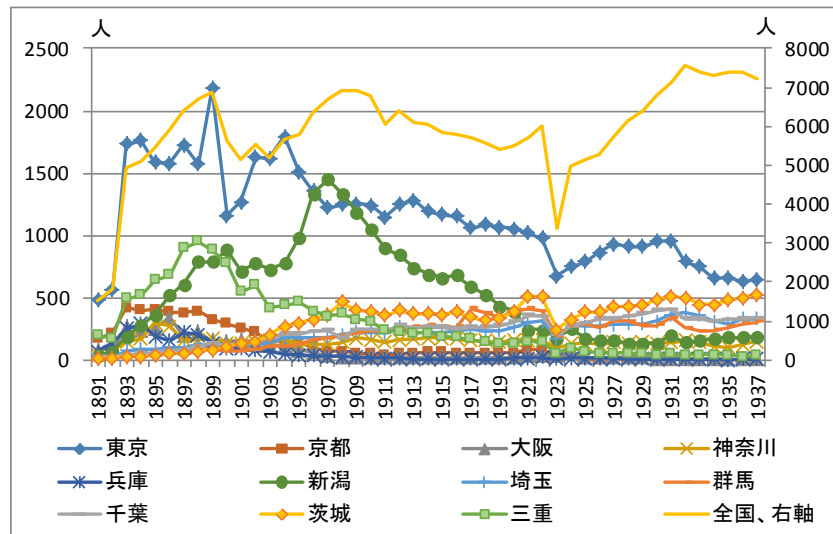
(出所)『内務省警察統計報告』

## 6. 娼妓供給都道府県の推移

明治以来の娼妓の供給都道府県がどのように推移したかは、既述の警視庁統計書によって、東京への供給都道府県だけであるが明らかにすることができる。図 10、図 11 は東京の娼妓の生国都道府県ごとの人数（ストック）を見たものである。

図 10 に見るように、東京における娼妓数は 5000 人から 8000 人であるが（1891 年、92 年の娼妓数が少ないのは十分に対象を捉えることができなかつたゆえであると思われる。1923 年の落ち込みは前述のように関東大震災によるものである）、東京の娼妓の 3 分の 1 が東京生まれであるが、徐々に低下する。京都はそれに先立って低下している。1890 年代から三重、新潟が多くなるが、それも 1910 年以降低下する。

図10 東京における娼妓(18歳以上)生国別人数(1891~1937年)



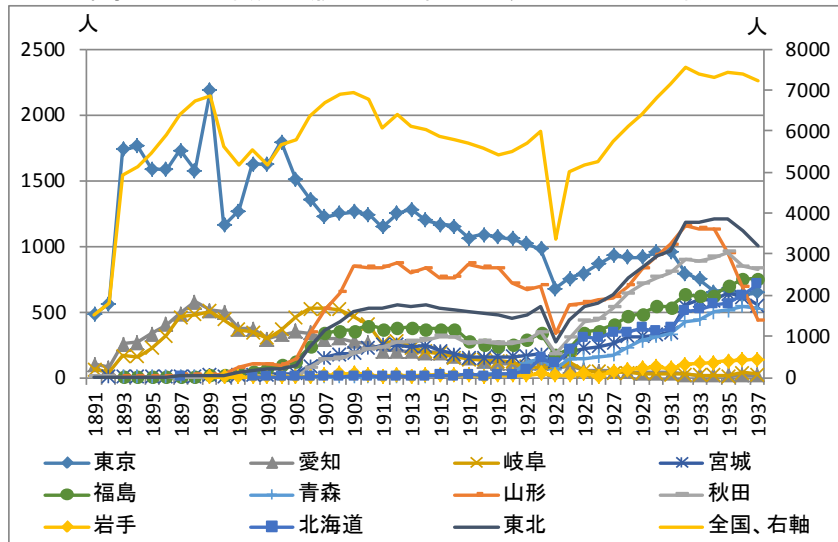
(出所)『警視庁統計書』

(注)岩手を除き、1年でも250人以上であった都道府県を示している。

図11で、愛知、岐阜は東京とほぼ同じ動きをしている。山形、福島、宮城、秋田が1907年前後から、1920年前後からは北海道、青森が大きく伸びている。岩手はそれほど大きくは伸びていない。これは東京、京都、三重、愛知、岐阜が順調に経済発展し、娼妓を供給する貧しさから抜け出したということを示しているのだろう。新潟もこれらの県には遅れたが発展し、最後に東北と北海道が経済発展から取り残されていたということだろう。東北全体の動きは20年代に増加しているが、30年代になって頭打ちとなり、後半減少している。

図10、図11から理解されることは、昭和恐慌以前にも娼妓の供給が増加した県があったということである。それらは、1890年代末の三重県、1890年代末から1900年代初の新潟県、1900年代初の山形県、1920年代初からの山形、秋田、福島、北海道、宮城、青森の東北・北海道である。しかし、娘の身売りという事象が脚光を浴びたのは1930年代だけである。それは、豊かになった日本人がその悲惨に目を向けるようになったということではないだろうか。

図11 東京における娼妓(18歳以上)生国別人数(1891~1937年)



(出所)『警視庁統計書』

(注)岩手を除き、1年でも250人以上であった都道府県を示している。

## 7. 結論

私たちは本稿において、昭和恐慌期に娘の身売りが実際に激増したのか、仮にしたのであれば、どの時期に激増したのかを、『警視庁統計書』から作成した時系列データを用いて検討した。その結果、定説や教科書を支持することはできず、昭和恐慌期に娘の身売りが大きく増加していなかった、むしろ32年をピークに減少していたことを明らかにした。ただし、昭和農業恐慌時に娘の身売りが増えていたのはおそらく確かである。また、昭和恐慌期に東北の一部で娘の身売りが増えていたとしたら、それは浜口内閣の官有地払下げによる可能性があることも明らかになった。したがって、娘の身売りの激増などが実際に起こり、そのようなことを生じさせた東北農村の困窮が、先の大戦に導いたというような歴史のシナリオも根拠に乏しいことも明らかになった。凶作は天候によるものであるから、それを資本主義の矛盾というには無理がある。凶作の対策は、都市の税収を用いて一時的に貧困地域を救済することではしかない。

一方、1906年から7年以降、東北で娘の身売りが激増していたことが示唆される。にもかかわらず、それにはまったく触れられることなく、根拠のない娘の身売りの激増説と東北の困窮と戦争とを結び付けるのは奇妙である。私たちの用いたデータには制約があるが、そもそも、昭和恐慌期に娘の身売りが激増したという証拠はまったく存在していないことは明らかにできた。



附表

附表として、『警視庁統計書』『内務省警察統計報告』の娼妓芸妓に関するデータを示しておく。

付表1(その1) 東京における娼妓(18歳以上)生国別人数(1891~1906年)

	1891年	1892年	1893年	1894年	1895年	1896年	1897年	1898年	1899年	1900年	1901年	1902年	1903年	1904年	1905年	1906年
東京	478	559	1734	1759	1586	1580	1727	1575	2182	1159	1268	1628	1621	1792	1504	1354
京都	171	217	417	395	404	381	379	390	323	287	253	220	154	151	138	98
大阪	82	82	271	245	255	336	196	221	153	145	157	152	119	115	82	59
神奈川	33	65	148	167	299	267	156	163	168	136	136	146	156	161	126	131
兵庫	70	132	251	293	188	155	224	199	136	93	86	76	64	48	39	36
長崎			1	1	2	3	2	1		1			2	4	6	4
新潟	31	66	188	275	361	521	604	791	789	881	718	776	728	778	983	1334
埼玉	21	19	72	87	85	100	101	120	120	118	136	123	141	180	178	178
群馬	6	12	29	44	53	56	72	78	80	74	71	83	109	109	131	161
千葉	17	17	41	49	53	70	78	105	134	110	135	143	176	207	210	228
茨城	11	10	29	30	34	55	47	69	79	108	136	142	202	271	299	324
栃木	8	8	24	29	32	47	41	39	57	59	78	70	77	113	101	115
奈良	13	8	40	40	47	50	44	45	35	22	17	23	19	21	23	17
三重	195	176	491	516	643	682	899	953	881	777	546	598	418	440	464	392
愛知	101	76	254	265	332	398	485	574	512	494	367	366	289	325	352	336
静岡	21	13	49	42	49	54	54	68	59	76	57	64	45	58	73	84
山梨	3	1	9	9	9	11	13	16	11	17	14	16	30	18	22	29
滋賀	26	23	60	62	62	75	78	99	83	71	63	41	38	41	49	42
岐阜	62	44	163	157	220	317	461	481	503	438	360	346	300	361	460	522
長野		2	13	21	26	37	47	47	47	54	39	26	21	29	29	31
宮城		1	2	1	2	6	10	7	17	12	24	17	21	26	29	87
福島			2	4	3	4	6	7	15	16	34	47	73	93	126	232
青森			3	1	2	2	1	2		3		2	3	4	5	2
山形		1	3	3	4	2	14	17	18	20	75	98	101	96	136	334
福井	19	13	38	29	24	30	45	50	47	38	33	22	23	20	21	21
石川	19	40	92	91	107	92	89	77	59	43	32	31	13	16	15	11
富山	3	4	13	14	19	28	34	38	23	32	25	27	24	22	28	21
鳥取	4	1	14	11	19	16	11	10	6	5	3	1		1	5	12
島根	8	9	6	8	11	12	11	11	13	12	5	4	5	5	19	5
岡山	8	26	55	67	59	60	52	50	29	27	25	21	11	11	7	5
広島	39	63	153	132	133	124	90	86	59	48	36	15	18	12	5	1
山口	4	13	18	16	17	20	17	19	8	8	5	4	4	2	4	3
和歌山	26	29	74	74	75	61	55	54	38	51	81	86	70	55	56	37
徳島	26	12	52	52	49	51	52	47	28	25	21	19	14	12	5	3
香川	9	3	15	11	12	21	17	21	16	18	20	14	6	8	7	3
愛媛	4	1	17	26	30	32	27	27	10	16	15	12	11	13	11	11
高知	12	52	73	79	143	157	144	155	124	116	72	59	48	37	33	24
福岡			2	2	2	1	2	3	3	4	6	5	5	6	3	1
大分		1	1	3	3	1	3	3	1	1	1					
熊本		1	3	2		1			1	1			1	1		1
鹿児島				1	2	2	2	2	2	1	2	1	1			
佐賀		1									1		1			1
宮崎		1					1	2		1	2	1				2
秋田	1	2					1	1	1			1	2	1	1	72
岩手									1	3	3	3	6	2	2	11
北海道							1					2	3	4	3	4
沖縄																
台湾																
全国合計	1531	1804	4920	5113	5456	5918	6393	6723	6871	5621	5158	5531	5173	5669	5790	6379

(出所)『警視庁統計書』

付表1(その2) 東京における娼妓(18歳以上)生国別人数(1907~1922年)

	1907年	1908年	1909年	1910年	1911年	1912年	1913年	1914年	1915年	1916年	1917年	1918年	1919年	1920年	1921年	1922年
東京	1222	1249	1257	1241	1144	1247	1279	1194	1166	1151	1061	1088	1066	1053	1018	980
京都	68	70	52	46	42	50	52	59	60	53	56	53	51	53	84	82
大阪	34	27	26	23	20	18	18	18	18	17	19	22	23	21	31	41
神奈川	127	141	176	163	143	163	166	172	177	169	154	152	143	163	161	156
兵庫	29	24	18	15	12	12	7	7	7	8	6	6	8	11	13	20
長崎	3	2	1	1			1	1	1	1	2	1	5	4		8
新潟	1449	1337	1187	1051	894	840	741	689	660	682	585	529	432	393	245	241
埼玉	182	203	219	221	216	262	216	220	224	238	240	229	239	262	304	307
群馬	172	193	218	230	226	255	261	277	269	261	413	379	338	398	413	391
千葉	237	173	240	242	230	279	254	261	260	250	265	261	278	305	356	351
茨城	366	465	401	394	358	401	373	370	364	386	345	318	334	385	511	507
栃木	135	150	147	180	149	158	157	172	166	185	236	246	219	292	329	363
奈良	13	8	11	10	6	8	7	5	5	5	4	5		3	17	20
三重	352	370	323	312	235	227	215	213	190	185	170	143	129	136	150	139
愛知	292	299	271	262	205	200	196	189	188	164	148	128	105	108	108	115
静岡	85	97	98	88	50	68	78	79	73	65	65	88	90	74	68	72
山梨	23	24	16	23	18	18	22	24	26	19	45	60	65	71	64	61
滋賀	30	30	30	20	15	12	13	11	11	9	9	10	9	17	17	15
岐阜	524	516	466	401	261	282	229	197	180	151	138	134	127	116	80	77
長野	29	34	39	51	48	50	42	50	51	68	64	78	68	74	54	53
宮城	152	174	181	221	246	247	234	238	204	175	152	153	156	159	163	177
福島	334	357	354	392	370	376	381	371	366	368	279	255	238	254	287	337
青森	3	2	3	4	5	8	13	13	16	20	17	27	27	29	111	142
山形	517	645	841	839	834	872	801	830	761	762	862	840	828	717	673	698
福井	23	19	17	18	16	8	10	12	18	13	20	20	18	29	38	42
石川	18	15	19	15	15	10	11	13	11	11	9	7	3	6	10	10
富山	20	21	25	21	18	14	12	10	13	15	16	20	22	13	12	15
鳥取	20	19	17	15	13	7	3	6	4	3	2	6	12	9	4	4
島根	6	4	3	5	3	2		1	1	1	3	1	8	2	2	1
岡山	8	8	5	5	5	2	2	3	5	2	4	1	13	14	10	9
広島	1	1			2	2	1	2		3	1	1	1	3	3	1
山口	5	2	2	1			2	2	2	2	3	5	3	2	1	1
和歌山	32	23	17	14	8	4	4	2	3	3	5	5	12	8	7	14
徳島	2	1	2			2	1	2	1				3	2	3	3
香川	1	3	3	6	5	4	4	4	3	2		4	2	2	2	2
愛媛	9	7	8	4	3	6	2	3	1	1					4	2
高知	16	9	6	4	2	3	1	1	3	2	1	1	2	1	7	7
福岡			4				1	1	1	2	1	1	16	12	5	4
大分				1	1	2	2	2	1	1	1	1	1			1
熊本				1			3	3	1	1	2	2	2			
鹿児島				1	1	1	1	1	1	1					3	9
佐賀			1		1							1			2	
宮崎	4															
秋田	136	144	183	216	228	265	271	283	310	303	259	275	262	259	280	345
岩手	19	29	27	15	12	17	13	14	20	19	18	12	18	18	19	28
北海道	7	4	9	9	6	8	4	11	15	11	21	11	25	21	52	143
沖縄															1	1
台湾		1	1													
全国合計	6705	6900	6924	6781	6066	6411	6104	6036	5857	5788	5701	5579	5401	5499	5722	5995

(出所)『警視庁統計書』

付表1(その3) 東京における娼妓(18歳以上)生国別人数(1923~1937年)

	1923年	1924年	1925年	1926年	1927年	1928年	1929年	1930年	1931年	1932年	1933年	1934年	1935年	1936年	1937年
東京	677	752	789	864	929	914	914	950	959	791	750	653	663	627	646
京都	27	45	9	9	13	7	8	9	13	8	8	5	5	5	10
大阪	32	60	21	22	21	27	18	15	16	11	8	10	9	5	9
神奈川	99	131	137	121	144	135	142	135	144	153	140	105	98	123	145
兵庫	4	10	11	11	10	9	8	6	7	6	5	5	1	5	5
長崎	2	3	3	5	8	4	3	4	2	7	7	5	6	7	1
新潟	174	248	174	154	158	133	131	133	196	144	157	176	185	182	190
埼玉	173	290	269	271	282	291	289	307	365	377	358	311	293	329	333
群馬	192	271	288	266	314	308	274	274	336	254	228	238	260	287	303
千葉	197	271	295	327	327	351	371	397	406	333	328	310	321	332	334
茨城	240	326	382	387	427	432	438	487	504	498	445	445	477	500	527
栃木	195	275	266	283	293	329	322	356	375	350	346	312	322	377	327
奈良	3	3	2	1	3	4	4	6	4	1	2	1	1	3	6
三重	52	92	64	57	55	54	46	40	44	42	37	37	38	29	33
愛知	60	87	52	46	50	43	38	34	37	23	19	19	15	16	17
静岡	45	75	57	50	49	46	37	39	40	59	46	39	49	71	78
山梨	38	58	39	43	49	53	54	49	38	46	57	51	59	70	76
滋賀	5	12	17	16	8	8	9	9	5	2	2	4	5	3	2
岐阜	59	122	51	41	38	36	28	30	24	24	15	14	13	35	25
長野	50	66	59	52	55	53	61	63	57	58	56	68	72	93	86
宮城	122	190	220	235	263	309	314	327	341	550	588	586	636	612	550
福島	168	218	341	359	399	467	486	543	537	632	616	623	697	747	752
青森	63	135	143	159	172	230	276	313	333	429	440	495	508	542	524
山形	337	550	570	589	605	696	827	928	1011	1149	1134	1123	944	683	434
福井	5	46	9	13	13	9	9	10	11	8	6	4	5	13	11
石川	5	6	15	18	14	17	15	15	14	15	9	8	8	14	8
富山	9	27	22	26	26	26	35	32	29	16	15	15	19	15	21
鳥取	3	2	3	3	4	4	4	7	4	5	3	5	3	2	4
島根	2	6	8	8	8	7	3	2	1	2	5	2	2	2	1
岡山	4	6	6	4	7	7	7	6	3	7	4	5	6	1	
広島	2	7	9	9	12	20	20	13	11	5	3		4	8	7
山口		5	8	9	10	10	15	14	6	6	4	5	2	1	2
和歌山	6	16	2	3	4	3	5	2	2	2	2	4	5	5	5
徳島	1	6	11	8	7	3	4	5	4	1	2	1	1	2	1
香川		1	1	1	2	3	2	3	3	1		1		3	4
愛媛	2	4	10	8	9	8	3	6	2	7	9	8	5	9	13
高知	2	9	8	9	8	7	15	11	11	2	1	1	1	2	8
福岡	3	12	10	11	10	8	8	6	4	5	9	9	6	7	7
大分	1	5	5	4	2	1	3	3	4	4	4	3	4	5	5
熊本	1	3	4	6	3	4	3	4	2	4	2	2	2	2	3
鹿児島	2	5	4	6	5	7	5	5	5	5	7	9	7	4	3
佐賀			2	1	1	1	2	2	3	2	2	3	4	2	3
宮崎		7	4		3	4	6	2	4	2	5	7	7	7	5
秋田	174	301	427	438	529	636	711	760	797	897	882	915	952	841	822
岩手	17	16	31	9	43	64	68	80	68	102	104	114	128	132	135
北海道	109	208	303	301	342	344	375	352	373	503	519	555	560	628	711
沖縄	1	1	1	1			1								
台湾									1	1	2	3	2	10	15
全国合計	3363	4989	5162	5264	5734	6132	6417	6794	7156	7549	7391	7314	7410	7398	7207

(出所)『警視庁統計書』

付表2 東京における芸妓本籍道府県別人数(1929~1937年)

	1929年	1930年	1931年	1932年	1933年	1934年	1935年	1936年	1937年
北海道	169	174	202	243	339	374	443	586	652
東京	7231	7296	6719	6333	6339	6289	6349	6728	6933
京都	46	24	20	21	34	28	26	28	29
大阪	122	78	67	64	65	94	82	80	83
神奈川	574	562	494	477	536	529	540	499	538
兵庫	40	32	21	17	16	19	22	24	32
長崎	27	13	13	12	15	20	15	15	16
新潟	167	146	161	180	199	247	268	299	342
埼玉	313	323	296	297	303	302	336	345	398
群馬	185	150	168	167	191	196	200	234	245
千葉	300	323	319	312	330	326	365	400	468
茨城	205	205	206	230	249	249	288	307	378
栃木	224	185	173	187	197	222	240	260	289
奈良	18	4	4	9	11	11	12	13	13
三重	25	36	34	34	51	53	47	56	56
愛知	108	98	88	84	85	92	87	93	94
静岡	109	113	104	119	121	124	128	166	164
山梨	81	62	67	75	79	78	90	116	151
滋賀	15	8	11	13	9	17	11	19	19
岐阜	40	31	31	25	30	23	28	34	34
長野	88	89	102	98	107	111	113	132	148
宮城	76	79	76	89	103	98	117	137	163
福島	107	114	131	120	136	151	180	193	221
岩手	31	33	38	35	41	40	54	52	69
青森	48	47	66	74	100	111	155	193	225
山形	52	50	55	59	68	75	87	89	111
秋田	58	55	52	63	81	89	138	164	202
福井	21	23	24	19	24	30	28	36	35
石川	17	10	14	8	7	12	15	18	18
富山	20	25	21	21	24	29	35	36	31
鳥取	7	6	3	3	4	6	2	1	8
島根	5	4	3	4	3	9	5	3	11
岡山	11	5	9	7	8	5	4	8	18
広島	13	11	6	5	4	11	11	16	13
山口	6	5	7	9	7	6	12	10	9
和歌山	8	5	6	5	6	6	8	8	12
徳島	5	3	3	2	5	6	10	10	8
香川	9	7	5	7	7	7	9	7	7
愛媛	5	4	2	4	5	6	11	9	14
高知	8	3	5	5	5	4	7	7	10
福岡	17	17	12	13	17	22	26	31	25
大分	8	3	4	5	6	12	9	10	7
佐賀	8	5	5	4	5	4	8	14	9
熊本	8	6	4	6	5	9	11	13	16
宮崎	2	-	1	-	1	1	2	1	2
鹿児島	4	6	4	6	5	8	9	8	11
沖縄	3	2	1	1	-	-	1	-	1
朝鮮	2	-	1	3	6	5	9	5	5
樺太	1	1	2	2	1	4	5	10	9
露国人	2	2	2		2	1	2	1	1
合計	10649	10483	9862	9576	9992	10171	10661	11524	12353

(出所)『警視庁統計書』

(注)出所資料には、1935年の合計は10661とあるが、合計は10660である。ここでは10660とした。

付表3 各県在住娼妓人数(1924~1941年)

	1924年	1925年	1926年	1927年	1928年	1929年	1930年	1931年	1932年	1933年	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年	1939年	1940年	1941年
北海道	2093	2055	1907	1782	1747	1706	1774	1645	1473	1240	1067	1017	1052	993	911	794	722	629
青森	534	558	517	471	473	415	433	394	377	378	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手	379	414	416	396	418	398	378	355	292	298	253	200	183	183	180	163	156	167
宮城	439	459	446	447	406	379	366	345	326	333	288	268	270	250	218	166	150	146
秋田	305	306	263	240	211	176	163	132	111	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形	774	795	795	736	623	569	578	547	536	498	472	293	185	156	147	141	132	147
福島	499	522	466	486	445	430	420	381	363	324	265	201	190	193	173	143	119	97
茨城	193	215	171	124	148	103	93	85	68	57	51	42	32	31	32	-	-	-
栃木	564	575	511	439	416	433	456	446	414	413	374	313	292	268	252	183	149	99
群馬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	122	113	88	83	48	48	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉	261	240	248	221	258	330	381	395	429	417	396	418	438	416	385	343	339	305
東京	4992	5159	5294	5734	6062	6360	6794	7151	7495	7388	7314	7473	7393	7207	7124	6360	5560	4848
神奈川	1590	1510	1487	1450	1347	1389	1375	1385	1357	1238	1170	1220	1225	1207	1192	1044	999	887
新潟	1419	1478	1453	1354	1356	1286	1340	1274	1166	1076	952	846	790	788	718	630	577	499
富山	397	478	470	424	393	356	361	370	340	291	211	196	174	161	-	-	-	-
石川	234	212	147	103	65	34	27	19	19	26	21	19	7	3	1	1	-	-
福井	577	611	545	528	477	427	459	484	452	385	336	310	324	676	524	548	286	244
山梨	203	202	201	186	191	178	181	159	167	149	130	132	135	132	128	119	113	92
長野	698	746	733	686	631	607	592	561	527	486	407	389	385	391	347	303	264	224
岐阜	730	776	719	736	738	733	750	680	664	582	621	590	607	582	968	881	704	768
静岡	306	862	864	826	804	857	897	871	862	766	847	836	910	922	850	754	774	728
愛知	2272	2371	2439	2453	2531	2627	2897	2975	3147	3114	3103	3139	3242	3277	3143	2844	2479	2143
三重	1362	1475	1296	1211	1185	949	1302	1279	1241	1098	1015	983	971	903	786	-	-	-
滋賀	431	419	409	385	378	370	414	415	378	379	344	358	380	358	319	274	238	205
京都	4223	4352	4310	4298	3852	4505	4685	4615	4784	4697	4650	4650	4840	4670	3862	3284	2908	2691
大阪	8327	8557	7973	8155	8352	8577	9046	9157	9266	9020	8685	8877	9091	9294	8866	8161	7369	6909
兵庫	2392	2495	2483	2463	2472	2490	2520	2469	2520	2501	2496	2551	2667	2681	2589	2389	2225	2122
奈良	646	717	716	751	640	659	695	693	706	766	712	683	783	744	695	632	624	534
和歌山	160	168	156	148	142	133	118	122	115	126	120	113	139	146	134	120	113	105
鳥取	193	212	185	165	159	163	150	140	133	99	70	76	89	88	78	12	-	-
島根	140	121	108	109	103	117	121	122	109	100	100	97	116	128	113	110	107	104
岡山	915	924	867	819	865	892	976	987	950	985	957	1020	1077	1027	873	745	688	634
広島	2696	2564	2307	2219	2186	2242	2404	2470	2433	2391	2290	2285	2457	2596	2636	2355	2152	2138
山口	1261	1222	1234	1136	1012	902	949	974	979	978	1032	1063	1099	1188	1143	1020	936	958
徳島	261	173	286	290	443	298	290	363	365	386	330	347	372	367	335	275	-	-
香川	687	697	572	562	569	587	661	675	679	554	414	494	512	561	538	526	-	-
愛媛	209	205	148	150	156	127	125	131	125	125	110	121	125	134	118	110	-	-
高知	364	359	323	315	305	339	367	346	332	323	320	334	356	349	344	296	267	243
福岡	2367	2422	2141	2074	1912	1835	1896	1815	1585	1477	1361	1321	1409	1504	1448	1398	1376	1230
佐賀	472	503	465	430	418	423	444	492	458	400	349	340	319	300	291	329	367	380
長崎	2287	1666	1929	1831	1555	1473	1518	1555	1424	1162	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	846	922	856	845	759	813	893	913	725	833	759	815	829	794	739	742	712	662
大分	546	590	542	585	585	560	571	532	431	375	320	311	313	284	349	348	328	184
宮崎	253	251	210	201	192	213	262	273	258	248	260	284	263	248	244	-	-	-
鹿児島	361	346	296	267	288	310	379	346	360	363	339	371	397	418	418	377	397	382
沖縄	845	869	808	742	742	659	583	526	616	457	394	441	640	599	1078	1064	790	790
合計	51825	52886	50800	50056	49058	49477	52117	52064	51557	49302	45705	45837	47078	47217	45289	39984	35120	32294

(出所)『内務省警察統計報告』

(注)出所資料には、1924年の合計は52325とあるが合計は51825である。ここでは51825とした。

付表4 各県在住芸妓人数(1924~1940年)

	1924年	1925年	1926年	1927年	1928年	1929年	1930年	1931年	1932年	1933年	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年	1939年	1940年
北海道	3441	3639	3679	3475	3730	3326	3454	3340	3717	3224	2847	2648	2797	2488	2471	2536	2268
青森	486	513	543	393	449	466	461	390	374	363	342	337	333	291	283	290	366
岩手	284	377	386	366	387	354	340	359	345	365	398	344	353	381	372	387	367
宮城	418	430	449	480	456	470	388	357	350	397	349	377	324	336	346	374	403
秋田	408	509	485	515	523	488	499	478	457	455	457	451	504	510	541	523	487
山形	668	658	677	700	669	602	577	500	511	505	468	437	426	442	422	433	406
福島	1307	1463	1455	1461	1335	1424	1220	1230	1253	1184	1133	1192	1199	1169	1109	1088	959
茨城	1017	1075	1110	1049	1091	1040	919	943	310	777	751	730	727	788	754	812	792
栃木	978	1019	1034	1073	1009	962	1030	943	983	919	882	988	1040	976	1053	1001	946
群馬	1106	1204	1248	1272	1286	1210	1231	1271	1305	1244	1141	1327	1286	1330	1377	1437	1335
埼玉	841	899	973	1002	1018	975	872	838	793	776	776	696	708	704	703	716	714
千葉	647	715	729	732	801	748	769	749	645	678	716	783	800	793	768	776	772
東京	9985	10154	10124	10246	10404	10649	10483	9862	9576	9992	10171	10661	11524	12353	13648	14221	13675
神奈川	2375	2335	2555	2509	2648	2562	2472	2290	2013	2009	1929	1930	2086	2083	2148	2385	2176
新潟	3094	3153	3170	3262	3245	3221	3335	3299	3187	3006	2823	2754	2712	2568	2812	2691	2558
富山	1855	1679	1675	1730	1675	1654	1664	1563	1355	1245	1221	1315	1411	1448	2262	2048	1757
石川	2443	2902	2487	2422	2254	2240	2331	2237	1995	1896	1888	1967	2049	2097	1903	1734	1639
福井	852	899	921	996	1120	1070	1087	1116	1159	1106	1093	1128	1274	931	902	1160	788
山梨	299	351	387	438	457	447	431	442	434	370	310	247	290	308	285	291	266
長野	2806	3023	3244	3099	2995	2884	2671	2632	2369	2169	1876	1844	1890	1814	1820	1880	1710
岐阜	1544	1592	1615	1702	1560	1687	1673	1756	1723	2049	2067	2520	2641	2588	1928	1813	1836
静岡	2018	2122	2237	2407	2084	1990	1974	2061	1888	1946	2005	2041	2145	2248	2471	2795	2476
愛知	5682	6043	6353	6404	6774	6911	6994	6788	6553	6802	6228	6298	6422	6587	6603	6590	5892
三重	1341	1337	1384	1391	1439	1456	1425	1403	1418	1373	1295	1209	1221	1275	1112	1072	977
滋賀	600	579	566	595	551	482	507	504	475	445	406	394	411	392	378	356	319
京都	2580	2571	2607	2646	2746	2421	2390	2195	2154	2060	1984	2025	2103	2040	2008	1932	1951
大阪	5513	5584	5553	5815	5884	5870	5618	5915	6401	6861	7075	7596	8001	8586	8268	8443	8048
兵庫	4307	4285	4094	4108	3885	3918	3711	3403	3104	3036	3247	3408	3676	3780	3634	3653	3505
奈良	602	605	593	606	610	601	615	588	545	501	501	504	526	450	407	441	479
和歌山	1171	1158	992	1235	1194	1179	1222	1034	928	1028	1053	1052	996	1018	933	865	906
鳥取	428	436	501	468	446	406	435	391	342	359	321	330	349	336	279	266	204
島根	852	820	822	796	809	776	858	896	837	766	726	674	661	668	590	573	445
岡山	770	706	881	919	948	895	955	906	821	821	782	819	854	859	564	608	594
広島	2137	1964	1866	1935	2021	2233	2220	2088	2039	1936	1969	1976	2060	2147	2019	1769	1641
山口	1656	1571	1375	1383	1464	1530	1468	1404	1325	1201	1285	1319	1406	1386	1417	1286	1175
徳島	637	689	630	598	587	595	646	537	536	626	517	531	506	507	457	428	442
香川	761	946	908	873	834	878	825	942	875	765	761	779	825	774	729	758	693
愛媛	1367	1372	1468	1138	1282	1383	1376	1215	1059	1009	937	966	1007	1067	1054	1033	920
高知	708	743	721	682	641	623	651	401	326	315	252	293	301	298	317	379	303
福岡	2987	2988	3234	3122	3093	3400	3625	3415	3441	3216	3318	3457	3719	3865	3753	3528	3237
佐賀	461	515	500	444	443	464	490	427	413	389	375	386	471	484	516	390	298
長崎	1040	1115	1047	1010	947	1032	1015	1117	1012	977	923	1041	1222	1331	1301	1280	1299
熊本	717	736	835	797	877	987	1011	968	1075	933	934	963	1077	1189	1049	906	760
大分	691	736	749	683	608	677	616	606	593	566	646	731	828	778	531	542	565
宮崎	605	651	540	626	669	668	677	818	795	774	690	733	737	700	582	806	851
鹿児島	504	476	518	477	507	526	539	432	388	459	415	436	468	425	353	334	492
沖縄	12	11	14	6	353	337	305	302	302	307	255	218	333	280	333	279	190
合計	77101	79348	79934	80086	80808	80717	80075	77351	74499	74200	72538	74855	78699	79868	79565	79908	74882

(出所)『内務省警察統計報告』

(注)出所資料には1932年の合計は74999とあるが合計は74499である。ここでは74499とした。